

社会科授業実践研究部

I 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の工夫

～社会的な見方・考え方を働かせるための課題設定や問いの追究～

II 研究主題

社会科の目標は、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。」である。

このことを基に社会科研究部として研究主題を次のように捉える。

「主体的」：社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分事として課題を認識し、その解決に向けて資料等を活用して、自分で考えをまとめること。

「対話的」：他者の発表を聞き、グループでの話し合いで他者との協働により自分の考えを広げ、深めること。

「深い学び」：情報を整理し、わかったことや共通点を見付け出し、他者との考えと比較し、関連付けながら自らの考えをまとめ深めること。

本研究部では、これらの力を身に付けさせるための手立てとして、児童生徒にとって魅力的な、課題設定や、児童生徒の思考を働かせるための問い*1が重要であると考えた。

そして、「調べたい」という学びに向かう力を育むために、思考を促すための適切な資料を精選すること、児童生徒が主体的に取り組むための単元を貫く課題設定及び問い*1の在り方を追究することを副題とした。

社会的な見方、考え方について [小学校学習指導要領解説(平成29年告示)社会編より]

「社会的な見方、考え方」は、小学校社会科、中学校社会科において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法(考え方)」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表す。

*1 問いとは、調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くものであり、単元などの学習の問題はもとより、児童の疑問や教師の発問などを幅広く含むものである。

III 研究の内容

1 研究の方向性

導入→課題設定→調べる、まとめる→発表・共有という授業の流れをつくり、導入から課題を設定する部分について(重点項目の一つ)研究部員の実践を通して授業研究を行った。また、小学校社会科と中学校社会科の円滑な接続を踏まえ、学習内容に応じた資料の妥当性や資料提示の手法、問いの在り方について、以下の三点を研究の視点として授業実践に取り組んだ。

- (1) なじみの薄い文化や社会的事象について、導入の資料でイメージを持たせる。
- (2) 魅力的な「問い」の提示
- (3) 調べ方の工夫(問題解決的な学習過程の充実を図る)

児童生徒の実態調査から社会科嫌いの要因として、「興味がわからない」「覚えることが多い」「調べることが好きではない」などが挙げられる。このような社会科への負のイメージを払拭すべく、「社会科好き」に育てるために三つの視点に沿って研究を進めた。(実践例ごとに各校の学年、学級における児童生徒の実態調査の結果を示した。)

IV 実践例

実践例①②は主題に迫るための試案として小学校と中学校で研究授業を行い、仮説と手立てについて検討した。

実践例① 所沢市立所沢小学校5年生 [授業者] 鈴木夏美 教諭

単元名「わたしたちの生活と環境」 小単元名「わたしたちの生活と森林」

1 展開

学習活動	学習内容	評価と指導の工夫	資料・準備	時間
1 日本の世界自然遺産について確かめる。	・日本の世界遺産 ・共通していること	○大型テレビで写真を見せることで、学習意欲を高める。	・世界遺産の写真 ・地図帳	10
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 課題 日本の森林はどのようになっているか調べよう。 </div>				
2 森林の様子を写真で見て、身の回りの森林の様子や、生活との関わりについて話し合う。	・四季それぞれの森林のよさ	○春夏秋冬の身近な森林を思い浮かべることで、生活経験と結び付けさせる。	・森林の写真	15
3 日本の森林の割合、森林の面積について知る。	・世界各国の森林の割合 ・日本の森林の割合	○資料の読み取りから、日本は森林に恵まれた国であることに気付かせる。	・資料「国出こしめる森林の割合」 ・資料「土地利用の割合」 Google earth	15

2 成果と課題

主体的に取り組ませるための資料提示を工夫した。それは、児童にとって距離を感じさせてしまう社会的事象を身近に捉えさせることがねらいのひとつである。そのために、自分たちの住む日本の自然環境や特に森林の様子をつかめるように、統計資料等を活用して、日本は森林が多い国であることや自然環境と自分との関わり^{*2}について児童一人一人に考えを持たせるようにした。

成果としては、森林率について学習する際に「Google Earth」で資料を提示したことで、関心を持たせることができた。

課題は、学習の見通しを持たせる（予想させる）段階で空論となってしまうことである。要因としては、導入時において既習事項を基にすることが十分でなかったことや、思考を促すための資料（非連続的テキスト^{*3}）の効果的な活用の方法が不十分であることが考えられる。

*2 学習過程において、つかむ段階での重点と捉え、この学習活動を意図的に設定した。

[資料 1]

つかむ(課題設定)	
意欲を高める	見通しをもつ
●学習問題を設定する ・社会的事象を知る <u>・自分との関わりに気付く</u> ・学習問題を見いだす	●学習の見通しをもつ ・予想や仮説を立てる ・どうやって調べるかを話し合う <u>・自分の関わり方を考える</u> ・学習計画を立てる

[資料 1]埼玉県小学校教育課程編成要領
(平成 30 年 3 月 埼玉県教育委員会)
より引用

*3 非連続的テキストとは、データを視覚的に表現した図・グラフ、表・マトリクス、技術的な説明などの図、地図、書式などを指す。

実践例② 所沢市立三ヶ島中学校 1 年生 [授業者] 上原麻幹 教諭
 単元名「世界の諸地域」 小単元名「アフリカ州」

1 展開

	学習活動	・指導上の留意点	資料
導入	1 アフリカの自然の写真を見ながら、前時の復習をする。 2 ボツワナでは輸出の80%がダイヤモンドであることの問題点を考える。 3 都市とスラムの写真を見て、状況を把握する。	・写真を見ながら前時の既習事項を思い出させる。 ・鉱産資源を採り続けるとどうなってしまうかを考えさせる。 ・都市とスラムの状況を理解させる。	大型テレビによる資料提示 (ICT 機器を活用した支援)
展開	課題 資源ばかり輸出する国の問題点はなんだろう。		資料集 P66・67 のデータグラフ等
	4 アフリカの輸出の特徴について調べる。	・農作物(カカオ)と資源の円グラフの見方を説明する。	
開	課題 アフリカの抱えている課題は何だろう。それを解決するためにはどうしたらいいだろう。		資料集 P68・69
	5 アフリカの抱える諸課題について調べ、その解決策を話し合う。	・一つ選択してその解決策についても考えるよう指示を出す。	

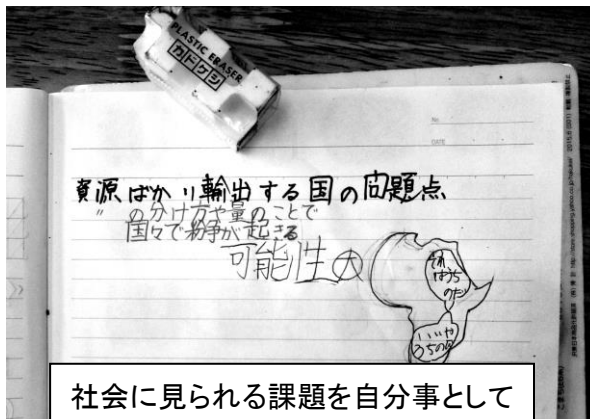
2 成果と課題

本時の課題を「資源ばかり輸出する国の問題点を考える」「アフリカの抱えている課題と解決策を考える」と設定し、主体的に取り組ませるための視点を明確にした。また、アフリカの都市とスラムの写真や映像、輸出のグラフを資料提示し、資源ばかり輸出することの問題点を考えさせ、アフリカの課題について調べ分かったことをまとめた。導入時において、このような手立てを講じたことで、社会的な見方や考え方を働かせることができた。

「資源は永遠にあるのだろうか?」「簡単に取れるのだろうか?」といった補助質問から課題について深めることができたが、評価Cの生徒に対する手立てについて、グループで確認する時間をとるなど対話を入れていくことが課題である。



適切な課題設定により、主体的な調べまとめる活動につながる。



社会に見られる課題を自分事としてとらえ追究していく中で、新たな問いを見いだしている。

実践例③～⑤については、児童生徒の社会科に対する実態と実践例①②の課題を踏まえ、その解決のために仮説を立て検証した授業である。

実践例③ 所沢市立上山口中学校3年生 [授業者] 小林玄 教諭
単元名「私たちと政治」 小単元名「民主政治と政治参加」

(1) 生徒の実態調査①（アンケート結果より）

Q1「なぜ社会科が好きなのか」という質問に対し、「地理は世界のことを知ることができて面白い」「学んだことが生活に生かせる」という回答があった。一方で、嫌いな理由としては、「興味がわからない」「語句を覚えるのが面倒」といった回答も見られた。

Q2「どのような資料が好きか、役に立つか」という質問に対し、「歴史の当時の写真や映像」「グラフ」といった回答が多かった。

Q3「どんな活動にやる気がでるか」という質問に対し、「話し合い」「映像を見る時間」「調べ学習」といった回答が多く見られた。

これらのことから、生徒が社会科を意欲的に学ぶ手立てとして、①生徒が魅力的な資料を提示すること、②話し合いで生徒に興味・関心を持たせる工夫をすることが必要なのではないかと考えた。

(2) 仮説と手立て

【仮説1】

授業の導入で魅力的な資料を使用することで、生徒は意欲的に学習に取り組む。

隣のひととの意見交換や、話し合いをすることで、自らの意見を伝えようとする雰囲気醸成された。



<手立て1>社会的事象を身近な出来事に

「今回、投票はしましたか」という街頭インタビューに「していません」「投票に行きませんでした」と答える20代の人々の映像を、生徒は真剣に見ていた。映像が終わった後、「選挙は何歳から参加できるの?」と聞くと、すかさず「18歳!」と答え、「あと3年じゃん!」という発言が続いた。生徒は選挙が自分たちの身近な出来事であることを認識したと感じた。

その後の「なぜ選挙に行かないのか」という発問に対しても、自分の意見をノートに書いていた。

隣とペアで意見交換を行う時間をとると、活発な話し合いが始まった。他人の意見に対し、「なんでそう思ったの?」「私もそう思う」と答え、その後、全体での発表では、多くの意見が出てきた。「仕事で忙しいから」「面倒くさいから」「政治がよくわからないから」20代の人々の立場になって考えることができていた。

そのような学習活動の場を設定することにより、自信をもって、表現しようとする姿勢が見受けられるようになった。



【仮説2】

役割を与えて話し合いを行うことで、多面的・多角的な考察ができる



〈手立て2〉違う視点から考える

「投票率の低下の問題点」について考えた後、本時の学習目標である「投票率改善のための解決策」について考えた。ここでは、4人班ごとに役割を与え、多面的・多角的な考えが出るように話し合いを行った。役割は①有権者②政治家③選挙管理委員とし、それぞれの立場から解決策を考えた。

「政治家かよ～」 「選挙管理委員って何する人!？」 など四苦八苦しながらも、それぞれの立場を楽しみながら話し合いを行っていた。「政治家はSNSでもっと情報を発信すればいい」という意見や「選挙管理委員はマンガを使ったり、もっと選挙をわかりやすくしたりする努力が必要」など、それぞれの立場に立った意見が多く見られた。

(3) 生徒の実態調査② (アンケート結果より)

Q1 「なぜ社会科が好きなのか」という質問に対し、「生活に必要なことが学べる」「社会のしくみを知ることができる」という回答があった。一方で、嫌いな理由としては、「興味がわからない」「社会のしくみが難しい」といった回答も見られた。

Q2 「これまでの授業で印象に残っていることは何か」という質問に対し、「話し合い」「模擬裁判」といった回答が多かった。

Q3 「どんな活動にやる気が出るか」という質問に対し、「話し合い」「映像を見る時間」といった回答が多く見られた。

(4) 成果

- 導入で魅力的な資料を使用することで、興味・関心を持つ生徒が多くいることがわかった。とくに生徒自身に身近な問題と捉えることで、授業に積極的に参加する生徒が増えた。
- 話し合い活動では、生徒に役割を与えるという工夫をしたことで、多面的・多角的な意見が生徒から出るようになった。

(5) 課題

- 魅力的で、生徒に身近な問題だと感じさせる資料を常に提示していくには、教員の幅広い知識が必要である。日常的に素材を発掘し、社会科授業に活用できる資料収集に努めたい。
- 話し合いで生徒に役割を与えたが、与えられた立場とは違った視点で話し合いを進めてしまうグループもあり、生徒にわかりやすい役割を与えることが必要である。

実践例④ 所沢市立向陽中学校1年生 [授業者] 大堀千紘 教諭
 単元名「世界の諸地域」 小単元名「ヨーロッパ州」

(1) 生徒の実態調査② (アンケート結果より)

- Q1 「なぜ社会科が好きなのか」という質問に対し、「知ることが楽しい」「歴史または地理が好き」「調べるのが好き」「話し合いが良い」などの回答があった。一方、嫌いな理由として「覚えることが多い」「小学校から嫌い」「歴史または地理が嫌い」などの回答があった。
- Q2 「これまでの授業で印象に残っていることは何か」という質問に対し、「映像資料を見たこと」「土器や地球儀を使用したこと」「話し合いをしたこと」などの回答があった。
- Q3 「どんな活動にやる気が出るか」という質問に対し、「映像資料を見る」「話し合い」「新聞作成」「調べ学習」などの回答があった。

この実態を踏まえて、

- ・ 動画や写真、グラフなどの資料を効果的に活かせるよう、社会的事象を身近にとらえさせるための学習課題の工夫が必要である。
- ・ 話し合いを通じて生徒自ら答えにたどり着き、「わかった」と実感させるための手立てとして、個への支援や指導と評価の一体化を図ることが重要である。これにより主体的な活動ができ、深い学びにつながっていくと考えた。

(2) 仮説と手立て

【仮説1】

魅力的な資料の提示で学習意欲を引き出せば、生徒が主体的に授業に参加するだろう。

社会的事象の関心を高めたり、その意味を理解させたりするために、導入時で映像を活用した。



〈手立て1〉ニュース動画で海外の出来事を「自分事」に!

EUの諸問題を学習するために、導入でイギリスのEU離脱問題に関するニュース動画を提示した。臨場感のあるニュースに学級全体が集中し、本時のねらい「イギリスのEU離脱問題について考える」が明確になった。

【仮説2】

効果的な資料の読み取りを行えば、生徒は主体的に考え、互いに深め合う話し合いを行うことができるだろう。

非連続的テキスト*3を活用し、多面的・多角的に考察した。



〈手立て2〉グラフ資料を協力して読み取ろう!

イギリスの社会の変化に関するグラフ資料を3種類提示し、4人班で協力して、イギリス国民がEUを離脱したいと考えた原因は何かを考えさせた。

- 資料A 「イギリスへの移民純増数」
- 資料B 「社会支出の国民所得に対する割合」
- 資料C 「EU予算への国別準拠出額」

対話的な話し合いを進め、まとめたことにより、グループ内での学び合いの姿勢が醸成された。

Q1. 資料A, Bから読み取れることは何か?
・イギリスの移民数が増加したことで、社会支出の国民所得に対する割合が増えていることがわかる!

Q2. 資料Cから読み取れることは何か?
・28の国中3番目に多いことが分かる!

3班

各グループから出された考えを比較したり、関連付けさせたりしながら課題解決に向かった。



各資料から以下の内容が読み取れる。
資料A 「イギリスへの移民の流入が増加していること」
資料B 「イギリス国民の社会保障負担が増えていること」
資料C 「イギリスは多額の負担金をEUに支払っていること」

話し合いを通じて「移民流入の増加と社会保障負担の増加が関連しているのではないだろうか」と考えを深める班が複数出てきた。

課題解決のための資料の読み取りを全員で振り返り、イギリス国民は本来自分たちのために使えるお金を移民や他の加盟国のために使われていると考え、不満を抱いたことが離脱の原因であると結論付けた。

教師は話し合いの前に、グラフの読み取りに必要な基礎知識を説明し、適宜、話し合いの支援を行った。

(3) 生徒の実態調査② (アンケート結果より)

- Q1 「なぜ社会科が好きなのか」、「なぜ社会科が嫌いなのか」という質問に対し、あまり変容は見られなかった。
- Q2 「これまでの授業で印象に残っていることは何か」という質問に対し、「映像資料」や「話し合い」と回答する生徒が増えた。
- Q3 「どんな活動にやる気が出るか」という質問に対し、「話し合い」と回答する生徒数が、1回目では10人だったが、2回目では17人に増加した。大きな変化が見られたことから、話し合い活動へ意欲的になったこと、話し合い活動によって理解が深まると実感できたことが考えられる。

(4) 成果

- ・全員が画面に集中している様子が見られ、話し合いが活発に行われたため、導入で提示した資料は効果的であった。
- ・グラフの読み取りを、難しいけれども楽しいと感じる生徒が多かった。ホワイトボードを活用したことで、生徒自身の手で調べ、まとめる活動への意欲を高め、各班の考えを振り返るのに効果的であった。
- ・生徒同士での話し合いが活発に行われ、対話的な活動ができた。

(5) 課題

- ・動画に集中できていたので、発問を通じて、前時の学習内容から「EUに加盟するとよりよい生活ができるはずだったのではないかなど、生徒から疑問を引き出せると、より主体的な学習へとつながっていったであろう。
- ・グラフを読み解くにあたって、「社会福祉」や「難民」、「EU加盟国の拠出金(分担金)など、中学1年生にとって普段聞きなれない難しい語句を事前に説明する時間を十分に確保する必要がある。本時では、机間指導しながら補足を行う機会が多かったため、説明が不足し、EU離脱の原因を読み解く時間が少なくなってしまう班があった。

実践例⑤ 所沢市立椿峰学校6年生 [授業者] 中原沙都美 教諭
 単元名「長く続いた戦争と人々の暮らし」 小単元名「生活すべてが戦争のために」

(1) 児童の実態調査② (アンケート結果より)

- Q1 「なぜ社会科が好きなのか」という質問に対し、「歴史動画が面白い」「歴史が好き」「調べるのが好き」「知らないことが知れて楽しい」などの回答があった。一方、嫌いな理由として「調べるのが好きじゃない」「話合いが楽しくない」などの回答があった。
- Q2 「どのような資料が好きか、役に立つか」という質問に対し、「動画」「写真」「グラフや年表」「絵」などの回答があった。
- Q3 「どんな活動にやる気が出るか」という質問に対し、「動画を見てまとめる」「話合い」「発表」などの回答があった。

結果、社会科を意欲的に学ぶ手立てとして、①教科書だけでなく、動画や写真、グラフなど、魅力的な資料を活用すればいいのではないかと。②話合いが楽しくないと感じている児童に対応するため、話合いに工夫をすればいいのではないかと、ということが分かった。

(2) 仮説と手立て

【仮説1】

身近に感じられる資料提示と発問をすれば、意欲的に学ぶ意欲が持てるだろう。

戦時中は平均身長が低かったことに驚いていた。そこから、なぜ低いのかを予想する児童もいた。

	1939	1948	2015
男子	152.1	146.0	165.7
女子	148.7	145.6	156.6

戦時中の
平均身長

<手立て1>疑問を持たせる資料で、インパクトを!


導入で、当時の生活の様子が予想できる資料を提示した。この資料から、「戦時中は何cmくらいだったと思う?」と問いかけると、「142cm」「158cm」という声が上がった。男子146.0cm、女子145.6cmという結果を見ると、「え?小さい!」「え、なんで?」という反応があった。

そこから、当時はなぜ平均身長が低くなっているのだろうか、と問いかけると「大根しか食べてなかったのではないか。」「食べるものがなかったんだよ。」という予想をたてることができた。

発言も大変意欲的で、資料の効果があつたように思う。

そこから、「では、実際はどのような生活をしてたのかを調べてみよう。」と調べ学習へ進めていった。

導入時における非連続的テキスト*3からの読み取りが「問い」を見いだしている。



【仮説2】

話し合いに思考ツールを活用すれば、他者と考えを深めることができるだろう。

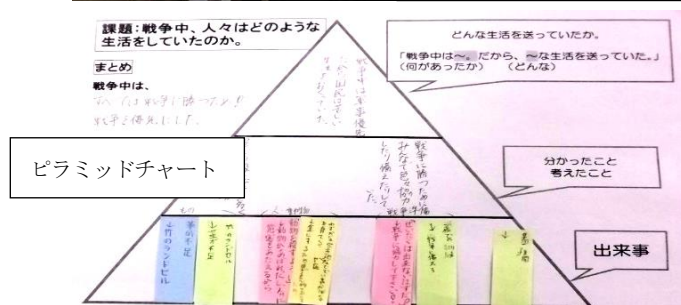
ジグソー活動を取り入れ、さらに付箋とピラミッドチャート*4を活用することで、意欲的に意見交換を行い、対話的な活動になるであろう。



①エキスパートグループで調べ、付箋に書く



②ジグソー活動で、ピラミッドチャートを活用



<手立て2>話し合いに思考ツールを活用しよう!

当時の生活を「子どもと学校」「衣服と物」「食生活」「政策」の4つの視点に分け、それぞれをエキスパートグループで調べ、付箋に書いた。次に、ジグソー学習を取り入れ、付箋とピラミッドチャートを活用し、対話的な活動になるようにした。児童は出来事の部分に付箋を貼り、そこから分かったことを考え、まとめていった。(例：戦争に勝つためにみんなで協力したり備えたりしていた・物資が不足していた→戦争中は軍事優先だった。だから苦しい生活をしていた)

付箋を使うことで、全員が必ず話をする機会を持ち、話し合いに参加していた。ピラミッドチャートを活用することで、子供同士の意見交換や、資料を読み合うことができた。

大変意欲的に活動している児童が多く見られ、一生懸命自分の考えを伝えたり、付箋を並び替えて考えを整理したりしている様子が見られた。みんなで協力して答えを導き出す作業を、楽しんでできていた。

*4 課題解決のための思考ツール 本研究では、歴史的事象→わかったこと、考えたこと→事実とその要因

(3) 児童の実態調査② (アンケート結果より)

- Q1 「なぜ社会科が好きなのか」という質問に対し、嫌いな理由として挙げていた「話し合いが楽しくない」という回答がなくなり、「話し合いが楽しい」という回答が格段に増えた。
- Q2 「これまでの授業で印象に残っていることは何か」という質問に対し、「クロストーク」「動画」「授業で見た写真や表」が多かった。
- Q3 「どんな活動にやる気が出るか」という質問に対し、圧倒的に「クロストーク」「ピラミッドチャート」「動画を見てノートに書く」「資料を使って調べる」という回答が多かった。

(4) 成果

- ・意欲的に調べている様子が見られたため、導入で提示した資料は効果的であった。
- ・ジグソー学習と付箋・ピラミッドチャートを活用したことは、子供たちの調べる意欲を高めることに効果的であった。この活動を楽しんでいる児童が多かった。
- ・子ども同士での話し合いが活発に行われていたため、対話的な活動であった。

(5) 課題

- ・興味を持った資料を導入に提示したので、そこから調べる視点(食生活・学校等)を児童から出させる学習過程の工夫をすることで、追究する姿勢を持続させるとともに、さらに主体的な学習へとつながっていったであろう。
- ・ジグソー学習は、担当した事象に関してはたくさんの資料を読むため、理解が深まるが、それ以外のところは全く内容に触れないため、そこをどのようにつなげていくか考える必要がある。今回は、まとめとしてそれぞれが調べたことの一部を「NHK for school」の動画を見せて理解を深めたが、ほかの方法を模索していく必要がある。

V まとめと課題

1 アンケート結果と実践の成果

質問 社会科は好きですか

平成30年 5月 はい 74% いいえ 26% (小学校2校 中学校3校)

〃 年11月 はい 78% いいえ 22% (小学校2校 中学校3校)

質問 好きな理由は何ですか

- (小学校)
- ・本に書いていないことも知ることができる
 - ・話合いが面白いし、色々なことがわかって楽しい
- (中学校)
- ・自分たちの生活に役立つことを知ることができる
 - ・社会の仕組みや知らなかった歴史について知ることができる
 - ・世界情勢など世の中のことを知ることができる

「知りたい」「楽しい」「もっと調べたい」という気持ちを年度当初から現在も変わらず持ち続けている児童生徒、また新たな問いを見いだした児童生徒がいることは今回の実践の成果であると考えられる。

Ⅲ 研究の内容 (1) なじみの薄い文化や社会事象について、導入の資料でイメージを持たせるについて、Google Earth やイギリスでのEU離脱投票のニュース、アフリカの自然の映像を導入に用いたところ、「なぜだろう?」といった疑問を口にしたり、初めて見るものに身を乗り出して感嘆の声を上げたりする児童生徒の姿があった。

(2) 魅力的な問いの提示については「資源は永遠に取れるのだろうか」「生活のすべてが戦争の準備につながっていたが、本当に望んでいたのだろうか」「どうしたら投票率はあがるのだろうか?」など、導入で感じた疑問を学習課題とすることで積極的に調べることができた。

(3) 調べ方の工夫については、課題に対する見通し(予想)を個々に持たせ、それをもとにグループで課題解決の場を設けた。その上で思考ツールを用いてそれぞれの意見を可視化したり、意図的に資料を組み合わせたりして、課題解決への道筋を立て易くしたことで問題解決までそれぞれのグループが行きつくことができた。

学習課題に興味を持たせるための導入の工夫や学習課題を解決するための調べ方・学び方・考え方を身に付けさせるための手立てを本研究部で研究することができたことは大きな成果である。

2 アンケート結果と課題

質問 社会科が好きではない理由は何ですか

- (小学校)
- ・覚えることがたくさんあって暗記ができない
 - ・歴史はもう終わったことなのに、覚えなければならないのが嫌だ
- (中学校)
- ・覚えることが多い
 - ・社会の仕組みは難しく単語が覚えられない

この結果を見ると社会科嫌いの多くの児童生徒が抱えていることは「覚えること」の難しさであることが分かる。社会科が暗記科目となっていることは、「自分事」として捉えられず、ただ用語を覚える教科という認識でもあるのだろう。小学校のアンケート結果の「歴史はもう終わったことなのに」という意識を、先人に学び現代にいかす「自分事」としての歴史と捉えさせていかなければならないと改めて感じた。

本研究ではこれらの課題を解決すべく、主体的な学びに向かわせるための資料の精選、課題設定、いわば児童生徒にとって自分事としてとらえることのできる切実な「問い」について追究できたことは大きな成果である。またそこから見えた課題についてさらに研究を深め、ただの暗記ではない、自ら学びたくなる社会科の授業づくりに今後も取り組んでいきたい。

※本研究に特別講師としてご指導いただきました三ヶ島中学校 校長 沼田芳行先生に深く感謝申し上げます。